

現代社會の要求する人物

方 哲 源

ルネサンス以後其の先驅者とも云ふべき、ルソーの自然主義的個性を尊重する感情主義は歐州人の視野を廣め自由研究の端緒を開いた。中世の根本題目は神國の興隆と尊崇とにあつたがルネサンスにあつては、神に代へるに人を以てし、かくて人間自然の本性と價值とが高調された。

人文主義は個人の開放と大自然の征服を目標として猛進した。かくて物質文明は實に凡有一切のものを支配する所の原動力となつた。

文化の進展に伴ひ社會は絶えず重大な而も複雑極りなき鬭争を續けてゐる。かゝる現代社會の凡有方面に於て眞實なる指導者が要求されるのは自然の傾向である。此の意味に於て我等は常に心身の健康と修養の力とに相俟つて先づ自己完成を志しつゝ漸次國家及び社會の指導者たらん事を期さねばならぬ。指導者としての資格は次の諸條件を満足させる人物でなければならぬと思ふ。

第一、知識力

高く深かき知能と鋭利で堅實な判断力とは人生の行路を觀極める唯一の眼である。我々は此の知力に依て人生の根本原理を掴み生存上必要なる方法を發見して合理的に歩み以て完全なる生活を期することが能きるのである。迷信を打破し問題を解決し、正義に基き自他共存の生活を營むには必らず人生の根本的原理に就ての思索を要する彼のキリストが『天の父の完全なるが如く汝等も亦完全なるべし』といふたのは完全なる人格者としての修養をなせといふのでその爲には第一知能の修養が肝要であるが此智は單なる世間智ではない。ルーターが言つた様に神を離れては如何なる知慧も理解も機智も人格完成には深かき意味を持たぬ亦日蓮上人が『日蓮の頭には大覺世尊かわらせ給ふ』と云ふ強き信念に依て得た妙智はギリシャ的世間的物理科學界の所謂智に非ずして出世間的宗教的信念を源としたる佛智の謂ひである。日蓮に働いたこの佛智は實に彼の鋭利なる判断力と明晰なる思索的探究力とのその根本に佛が生きてゐたからである。此佛智の故に不惜身命の大信念も生じたのである。聖人は常に事件の核心を考へ人生の根本原理を捉ふべきことを示された。

私共は眞に日蓮聖人の如き確乎不斷なる信念の力に依て得たる信仰的體驗を基調とする探究的思想

に依つて深く高き人生の根本義を把握して一路自他の救済に邁進せねばならぬ。

第二、心情力

心情の力を養成するのは人生の平和を保證する前提である、人は往々悲哀と寂涼とに襲はれる。かかる場合種々の悪魔の誘惑に陥り易いのが常の情である。然亦我等は悲衷の苦境に陥つた時美しき同情心を渴望するのは日常生活に於て常に經驗する事實である、キリストは『隣人を愛せよ』と言つた。

隣人とは弱きもの、憐れ極まりなきもの、謂であつて決して距離の遠近を論ずるのではない。一度眼を大にして、廣く世界人類の現状を觀察するに、實に憐むべきは人種間に於ける葛藤と反目である。南アフリカ、南アメリカ、太平洋沿岸の諸國等に於ける被壓迫民族に對する所謂文明人と自稱する壓迫民族の殘忍な弱肉強食的現状をいかに見如何に救済すべきか。血と涙とを持つ人間であるならば必ず彼等の全く自由を奪はれた立場を涙なくして見ることは能きぬだらう。文明民族が皆同情と眞實なる愛情を以て彼等の悲しき胸底を慰める大慈悲心の佛子であつたならば必ず永遠なる平和と融合の曙光を見出すであらうと信ずる。これ即ち大覺世尊の大慈悲心を理想とするもの、特に情燥涵養を重要とする所以である。

第三、意志 力

理想を實現する力とは、私共が向上的欲望に基いて自己の理想を實現すべき原動力即意志力である。高遠な理想實現の爲めに勇往邁進する意志の人こそ偉大者であり延いては人生の勝利者ともなるのである。青年こそ特にこれに當るものであらう。前途多き青年が敬愛されそして最大の期待を持たれる所以も此にあると想ふ。個人、民族、社會、國家の如何を問はず皆悉く此の目標たる理想とその實現力を失つたならば必らず滅びゆくに違ひない。常に生き生きとした理想を抱き着々その實現への努力に然えつゝ人類社會の上に生きた佛國土を建設するのは正にこの意志力である。故にいかにか我々が堅固な信念を持ち高遠な理想を抱き亦深い同情心を持つてゐるにしてもそれを實行すべき意志がなかつたらそれこそ空論にすぎないのである。

偉大なる人とは實に意志の堅固な人を云ふのである。先づ人生々存上、重要なることは堅固なる意志力を養ふ事である。而して意志力を養ふには何よりも常に絶えざる練磨と陶冶と尅苦忍耐とに依るのが最善の方法であると確信する。

第四、協 同 心

家庭、國家、社會等の團躰生活は必ず個人々々の集合に依つて組成されたものと考へることが能き。然し單に個人的にはいかに有能であつても、他人と協力することが出来なかつたならば彼が經營する事業は全く局部的な偏狹なものに終らねばならぬ。

我等は他人と協力することに依つて同じ働きを周圍の者にも亦は來るべき將來の人々の上にも殘す事が出來得るのみならず彼自身の偉大をなす所そのものである國が他國民と協力し得る度合ひに比例することは歴史の明示するところである、リンカンは實に此の精神に富んだ人であつた。彼は國家の幸福の爲めには自己の私情を捨て、その政敵にさへ尙且つ政治的椅子を與えた事は彼の協同的愛國心と偉大なる襟度とを暗示するものである、斯る精神の所有者であつた彼が偉人と呼ばれ後世南北アメリカに散在せる黑人から「聖父」とまで呼ばれたのも決して偶然ではない。

第五、犠 牲 心

犠牲の心とは高遠なる理想を達せんが爲めに個人的なるものを殺して超個人的理想に生きることである、その實個人的理想に生きることに由て眞の個人が生かされるのである、無智と貧困、病疾と闘争、迷信と罪惡等を根絶して理想我に生きるために最大の獻身的努力が必要である。釋尊、日蓮、キ

リストの如きは實に此犠牲精神の典型的權化と稱すべき人々である。

第六、超 人 力

人間は自己の力に由ては超人たり得ない超人間的實在の力を信することに由つてのみ超人的力を得ることが能きる。我等の宗教意識による人格統一の力こそ人間の全行爲を支配し運行して彼岸に到達せしむるものである、神は愛である人は信である。人は信に由つてのみ神の愛に生きることが能きる即ち宗教信仰は我等の全生活の中に織り込まれて我等は無限の生命の源泉たる神佛の超人間的力に由つて生きることが能きる私は確固不動の信念により、かゝる超人間的力を恵まれかゝる信念を基調として知情意の圓滿完成を期しつゝ協同犠牲の精神に生き以て自他救済の實を擧げる人こそ現代社會の要求する理想的人物であると信ずる。